

学びと  
共鳴編

# 中京マチビト



「マチビト×まちの居場所」

## Café 開催報告

### 中京マチビトCafeとは？

中京の今後の自主的なまちづくりについて、ワークショップ形式で話し合う交流会です。まちづくりについての情報交換、交流の場として開催しています。

開催日時：平成 26 年 9 月 5 日（金）  
午後 7 時～9 時半（開場午後 6 時～）  
場 所：中京区役所 4 階第 1 会議室  
参加者：88 名（運営スタッフ除く）

## 1 今回の目的

- まちの居場所について学ぶ
- 中京区のまちの居場所について知り、マチビトとまちの居場所の活動者がつながる場

## 2 プログラム

### 1 講演「都市の中の場づくり」

アサダワタルさんに都市部を中心とした様々な文化的な場づくり、多様な価値観を持つ人が集う風通しのよいコミュニティのあり方について講演いただきました。



### 3 まちの居場所の事例紹介

中京区などでの「まちの居場所」の活動者に報告していただきました。



### 2 意見交換（第1ラウンド）

「私が住み開きするとしたら？」について4～5名のグループに分かれて、意見交換スタート！



### 4 意見交換（第2ラウンド）

「あったらいいな、まちの“小さな”居場所」について意見交換しました



## 3 いつもとは一味違う「学びと共鳴編」！

アサダワタルさんの講演と「まちの居場所」をテーマに意見交換！

今回の中京マチビトCafeは「学びと共鳴編」としていつもとは違うプログラムでお送りしました。講演で「学び」、皆で同じテーマで話し合い、「共鳴」することを目的に「まちの居場所」をテーマに開催しました。



今回の司会は「さいりん館」の西村和代さん

講演はアサダワタルさん。アサダさんは芸術分野を中心に福祉や教育、まちづくりの分野で活動しておられますが、既存のコミュニティの価値観を再編集する「日常編集家」として著名な方です。今回、お話をいただいた「住み開き」という概念は、お店でもなく、公共施設でもなく、無理せず自分の好きなことをきっかけに、ちょっとだけ自宅を開いてみる試みで、実践例も多数、紹介されました。

講演後に参加者は、「えんたくん」を使って、「私が住み開きするとしたら？」をテーマに4～5名のグループに分かれて意見交換の第1ラウンドを行っていただきました。

第1ラウンド終了後には、より「まちの居場所」を身近に感じていただくため、実際に「まちの居場所」で活動されている方に事例紹介いただきました。

その後は再び、意見交換の第2ラウンド。今度は「あったらいいな、まちの“小さな”居場所」についてメンバーを替えて意見交換を行いました。

講演と意見交換を通じて、参加者の皆様にも様々な「まちの居場所」のあり方を知り、それぞれの考え方を共鳴していただけたのではないのでしょうか。今回の出会いもまた、新しい「居場所」につながっていけば良いなと思っております。

当日は、さいりん館、中京朝蜂（あさっばち）カフェ、うたごえサロン・ユニオン、oinai karasuma, soshare house, 本能・えんがわカフェ、Heartwarming cafe & space Page One 及びご自宅を「住み開き」されている中谷弘さん、谷口親平さんをご紹介致しました。



## ●当日の会場風景



## ●えんたくんとは？

今回の意見交換で登場したのが「えんたくん」です！  
「えんたくん」は、輪になって座った参加者の膝に置かれた丸い段ボールですが、従来のテーブルよりも距離が近くなり、発言が出やすいと評判のミーティング用グッズです。参加者は「えんたくん」をテーブルに見立てて、出た意見を自由に台紙に書いていきます。

自由に記入いただきました！



## ●参加者の声（一部抜粋）

- アサダさんが担当されているラジオ番組のファンです。アート、音楽、福祉をつなげて様々な取組を実現されているので、私も何かできないかとお話を聴きたくて伺いました。まだまだ力量不足ですが、好きな事から何かにつなげていきたいです。
- 色々な工夫をされていて、とても話しやすい場所になっていました。
- 私もレンタルサロンを運営しているので、参考になりました
- 同じまちづくりといったテーマで集まった方々とお話することができ、理解が深まり様々な取り組みを知ることができて良かったです。
- 地域の方々と交流できて非常に有意義でした。ありがとうございました。



当日配布資料

## 参加レポート（一部抜粋）

区役所インターンシップ実習生の清水さん（京都府立大学）

アサダさんの講演で初めて「住み開き」という言葉を聞きました。それはプライベートな場所をあえて開いてみる、するとそこから小さなコミュニティが生まれ、やがて居場所を作ることができるというものでした。

プライベートな場所を開くということに最初聞いたときは抵抗を覚えました。無理をせず自分のできる範囲でちょっとだけ開いてみるだけでもいいことや、実際にそれを実践されている方のお話を聞き、素直に面白そう！と思いました。

自分で開くことにはまだ抵抗があったとしても、まずは既実践されている方の活動に参加してみるということだけで、人とのつながりの感じ方を変えていくのではないかと思います。イベントなどとは違い、もっと一人ひとりの距離が近く、アットホームに感じられる「住み開き」は人の交流が少なくなってしまう現代社会で「居場所」を作っていくには非常に有効な手段であると感じました。